

今昔物語 第25話

不動明王像

不動明王は、密教の五大明王の一つで、悪を断じ善を修し、眞言行者を守護する役割を担っています。本来的には、大日如来が一切の悪魔を降伏させんがための化身です。

像容は一般に両牙をかんで片目を開き、弁髪を左肩に垂れ、右手に宝剣、左手に纏索(つな)を持ち烈々たる大火焔を背負っています。剣は種々の煩惱の悪魔を切り、索は衆生が迷いの道に陥らんとする時、この索で縛り救ってくれます。背負っている大火焔は火を観想して動ぜず、身から発する火で一切の煩惱を焼き尽くす大慈悲の徳を表しています。

不動明王への信仰は、密教が盛んになった平安初期から広まり、国や個人を守るものと考えられていました。特に江戸時代には、不動尊信仰はどの宗派の人でも信仰出来たため、更に広く信仰されるようになりました。

◎市内の不動明王像



新田大峯堂内



赤井大峯堂内



灰塚大峯堂内



竜間不動尊内

今昔物語 第26話

龍間山と石切り場跡

元和6(一六二〇)年徳川氏によって大阪城再築工事の命が各大名に下されました。石垣用の石が当地龍間山からも切り出されたらしく、現在でも各大名の家紋などを刻んだ刻印石などが多く残っています。

石切り場は龍間スポーツ施設建設工事中に見えられたもので、約5〜8段の間隔で一列をなし、ほぼ南北に並んでいました。石には「西足立」、「◎」などの文字や記号が刻まれています。

「足立」は豊臣秀吉が大坂城築城の際に石奉行に任じた、善根寺の足立家のことです。「◎」(輪遣い)はその家紋です。足立家は享保年間、18世紀前半に隆盛を極め、これらの石はそのところに設置された足立家の領地の範囲を示す境界石と考えられます。

なお、現在の大坂城石垣は徳川時代のもので、それにも「◎」の刻印が見られることから、足立家は徳川の代になっても引き続き石奉行であったと考えられます。

龍間山はその後、明治、大正時代には河内平野の開発のために道路用石橋、宅地造成石垣用の間知石、家屋基礎用の延石などに多く採石が行われました。石切り場跡の発見された場所は、現在のスポーツヒルズ大阪ゴルフ練習場の真ん中あたりでした。今は、ゴルフ練習場入り口の所に移築してあります。

